倉敷市で採集せる數種の蜘蛛の觀察

松　原　茂　雄（白甲鏞）

朝鮮京城　培材中學校

予は倉敷市大原農業研究所昆蟲部在任中公務の餘暇を利用して研究所の植物園及研究所附近に生棲する數種の蜘蛛，特にその卵囊に就て觀察する機會があつたから此處にその觀察記を報告する次第である。

I　Tetragnathidae　アシナガグモ科

1　*Tetragnatha lea* Bös. et Strand 1906　アヅマアシナガグモ　(VII. 1941 採)

2　*Tetragnatha squamata* Karsch 1879　ウロコアシナガグモ　(VII. 26. 1941)

桃や櫻の葉に（表裏をえらばず）直徑6～11 m. m. の扁圓形の卵囊をつけ♀はその上に足を伸してうづくまつて卵囊をまもつて居た。卵囊は極めて粗く白色の絲を不規則に綴た扁圓形の綿狀塊でその中央に一塊の卵を包み卵塊は外からすかして見られた。卵は直徑 0.6 m. m. の淡綠色の球形にして表面には何等の斑紋も點刻もなかつた。卵塊を取出すと各々の卵粒は容易にばらばらにはなれた。1 卵囊中の卵數は 102 個（1 例）41 個（1 例）であつた。

II　Thomisidae　カニグモ科

3　*Philodromus reussii* Bösenberg 1903　(VII. 1941)

III　Salticidae　ハヘトリグモ科

4　*Menemerus brachygnathus* (Thorell) 1887　(VII. 1941)　fig. 1

本種は *M. confusus* とよく似てをるから混同されやすい。併し Epigyne の構造を比較すれば容易に區別出來る。

5　*Myrmarachne innermichelis* Bös. et Strand 1906　クロアリグモ　(VII. 1941)

IV　Clubionidae　フクログモ科

6　*Clubiona japonicola* Bös. et Strand 1906　ウスキフクログモ　(VI. 20. 1941)　fig. 2

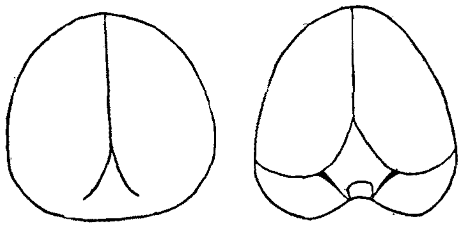


fig. 1 右. *Menemerus confusus* の Epigyne を示す。左. *M. brachygnathus* の Epigyne を示す。(W. Bösenberg 及び E. Strand, 1906 に依る)

禾本科植物の葉を折り曲て産室をつくる。産室は内壁を白色の絹絲で薄く裏打しその壁に長徑 5〜7 m. m. 短徑 3〜5 m. m. の扁楕圓形の卵嚢をつけてある。♀親は卵と共に産室内に閉ぢ籠つて居る。卵塊はうすい白色の絹絲樣光澤ある絲で包まれて居る。此の絹絲の包みを取去ると淡黄色の眞珠樣光澤ある卵が出て來る。卵は直徑 0.7 m. m. の球形にして表面には點刻も斑紋もない。産室の形には種々あり予の採集せる 22 個の産室を分類した結果は fig. 2 に示す如く A, B. C, D の 4 つの型があり, A 型のもの 17 例. B 型のもの 3 例, C D 型のもの各 1 例づつであつた。尚産室の高さ (h) は次の如し (A. B. 兩型

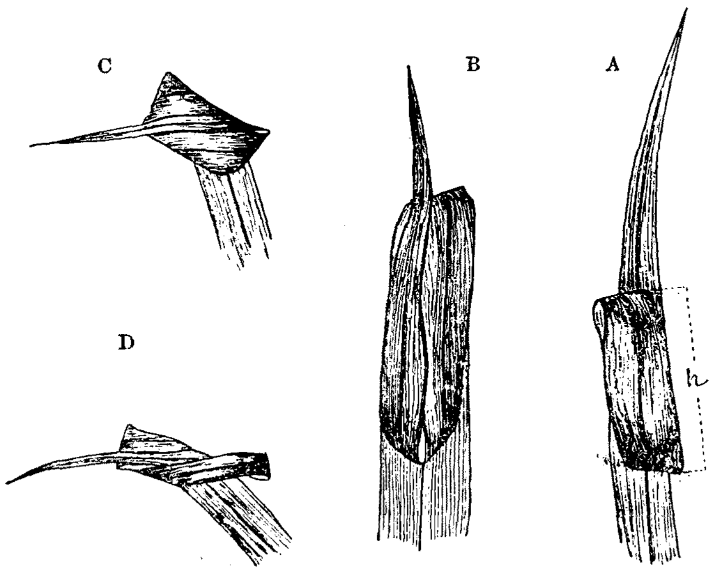


fig. 2 *Clubiona japonicola* の産室の各型を示す。

のもののみ計る)。

単位 m. m.

産室の高さ	38	30	27	25	24	20	17		
例　　数	1	1	6	3	3	5	1		

1 卵嚢中の卵數は次の如し

卵　　數	59	64	65	79	84	85	89	94	126
例　　數	1	1	1	1	1	1	2	1	1

V Pholcidae イウレイグモ科

7 *Pholcus phalangioides* Füsslin イウレイグモ (VI. 1941)

家屋内の暗い隅, 特に便所の中に多し。

VI Dictynidae ハグモ科

8 *Dictyna foliicola* Bös. et Strand 1906 ミドリハグモ (VII. 24. 1941) fig 3

齋藤三郎氏: 日本動物分類 眞正蜘蛛目 (II) に依れば本種は未だ本州からの記録なきものの如し。小松榮氏 (1936) は本種にヒナハグモなる和名を用ひて居るが予は齋藤氏に從ひミドリハグモと呼ぶこととした。

桃の葉の表面 (或は裏面) に簡單な日覆様の巣をつくり其下に 1～3 個の卵嚢を絲でもつて葉面に密着させてゐた。卵嚢は直徑 2.5～3.0 m. m. の白色扁圓形にして上面やや膨隆し周縁に白色の隆起環をめぐらせるを認む。♀は卵嚢の上にうづくまつてゐた。卵嚢は特別な内部構造を有せず嚢を破ると卵は容易にばらばらと出て來た。1 卵嚢中に包有せる卵數は 15 個 (2 例), 26 個 (1 例) であつた。卵は淡黄色を呈し直徑 0.5 m. m. 内外の球形にして表面には何等の點刻も斑紋もなかつた。

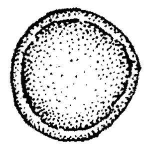


fig. 3. *Dictyna foliicola* の卵嚢を示す。

VII Theridiidae ヒメグモ科

9 *Theridion tepidariorum* C. L. Koch 1841 オホヒメグモ (VII. 1941)

10 *Argyrodes bonadea* (Karsch) 1881 シロガネ中サフロウグモ (VII. 28. 1941) fig. 4

コガネグモ *Coganargiope amoena* の巣に多數居候してゐたが卵嚢は人家の軒下等に簡單な不規則網を張りこれに 1 乃至數個づつの卵嚢をつりさげる。卵

嚢が出來上つた後は♀親は別に之を見張りして居らない。卵嚢は淡黄色乃至黄褐色を呈し提灯の様な形をしてぶらさがつて居る。卵嚢壁の內側は白色にして同じ色の非常に長い綿毛を有し之がもつれて保護層を形成してをり此の保護層の中央部に卵塊がある。卵塊は容易にばらばらになる。卵嚢の底部(a)は開いてをり通氣と幼生の脫出孔とをかねるものらしい。卵は稍々橙色を帶びたる黄色にして點刻斑紋共になし。珠形にして直徑 0.6 m. m. なり。

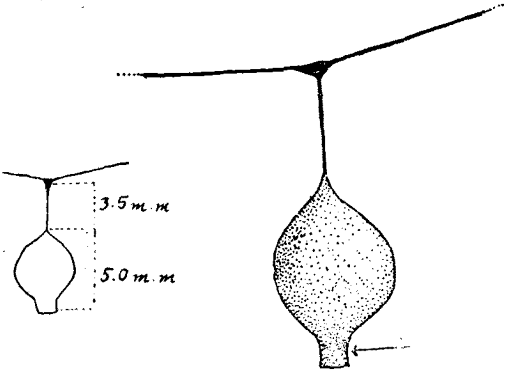


fig. 4. *Argyrodes bonadea* の卵嚢を示す。

一卵嚢中の卵數は次の如し。

卵　數	24	25	33	37	42
例　數	1	1	1	1	1

結　閥　類　の　種　類

高　島　春　雄

東京文理科大學動物學教室

世界の結閥類も今では相當種數が多くなつて居る。1936 年の拙稿以後 A. E. Michelbacher 氏 (1938) が屬種一覽を掲げそれでは 13屬 55 種にしてある。但し其の一覽では *Hanseniella californica* は *Symphylellina californica* と誤記されて居る。其の後今日に至るまで屬種一覽を掲げた學者あるを知らぬが, 1938年以後も新群の記載は外國の學者によりぼつぼつ行ばれて居るので其等をも含め新訂版として玆に 2 科 13 屬 69 種の世界產結閥類の一覽を掲げることにした (外國文獻の入手不可能になつてから後に提唱された新群ありとすれば當